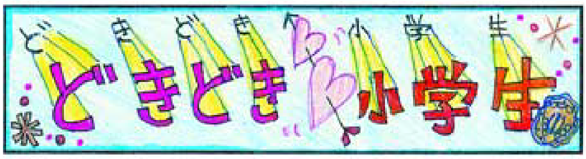
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行



高砂小

学校名　仙台市立高砂小学校　校長　菊地　秀敏
所在地　仙台市宮城野区福田町1の11の1　児童　608人
電話　022（258）1088

校歌と地域の歴史を探れ!

川面に映る桜を歌う

知り隊

私たち高砂小の新聞委員会は、校歌の歌詞に目を向け、そこから高砂の歴史について調べることにしました。そこで地域に古くからある雲洞院のご住職で歴史に詳しい小松啓祐さんにお話をうかがいました。

地名 砂地の景色から

雲洞院の前に集合した取材スタッフ

校歌ができたのは1958年です。歌詞の歌い出しが「七北田川に　かげうつし」で、住職さんは「昔、高砂小は七北田川のすぐ前にあり、桜の影が川に映っていた様子を歌ったんだよ」と説明してくださいました。「さくらの若芽がひかってる」と歌詞が続くように、「学校のそばにはたくさんの桜が植えてあって、風が吹くと川面できらきらと輝いていた」ということです。

これを聞いて私たちは地域の歴史をもっと知りたくなりました。

高砂小が現在の場所に移ってきたのは、1968年で、周りは田んぼだったそうです。この辺りは、田子村、岡田村、福室村、中野村、蒲生村の五つに分かれていて、それらが合併して高砂村となりました。

「高砂」という名前になったのは、兵庫県高砂市の景色に似ていたからだそうです。昔、仙台の殿様が視察に来て、播磨の国（兵庫県）の高砂の海岸に似て砂地が多い、と言ったのが始まりということです。私たちの中で兵庫県に行ったことがある人はいません。いつかその地域の景色を見てみたいなと思いました。

また、高砂小は場所も名前も何度か変わっていて、ずっと以前はこの雲洞院を仮校舎にして始まったことが分かりました。まさしく寺子屋から始まったのだなと思いました。

最後に「その歩みをくわしく書いた石碑がある」と住職さんに教えていただきました。

◇　◇

取材の後、学校に帰って確かめてみると、住職さんのおっしゃった通りに石碑がありました。それは、私たちがいつも遊んでいた校庭のブランコのそばにありました。とても、感動しました。

文・佐々木天美、芳賀光樹、柴山果那、鈴掛大地、池田瑠香、笠原香奈（6年）

高砂小校歌
作詞　熊谷昭晴
七北田川に　かげうつし
さくらの若芽が　ひかってる
すんだひとみを　かがやかし
手をとり合って　はげもうよ
ぼくら　わたしら　高砂の
すなおで正しい　小学生

言い隊

■エコ週間で呼び掛け■

私たちの学校では、「エコ週間」という週間があります。いつもよりエコを心掛ける週間です。

給食時間の放送では、計画委員会が節水や節電を呼び掛けています。また、節水をするように保健委員会が作ったポスターが、水飲み場にはられています。

私は最初、エコ週間と言われても、エコを心掛けることができずに、あまり実行しませんでした。けれども地球温暖化の問題について知ってから、節電や節水に気を付けるようになりました。環境問題は、一人一人の心掛けが大切だと思いました。

みなさんもエコを実行してみませんか。

（6年・松本捺央）

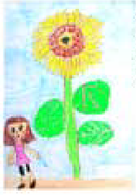
■皆が使いやすいもの■

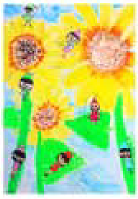
私たち6年生は、国語の学習でユニバーサルデザインという考え方を学びました。これは障害のあるなしにかかわらず、すべての人にとって利用しやすい製品や施設づくりをすることです。

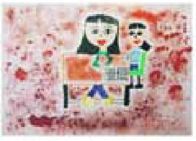
高砂小は、比較的ユニバーサルデザインの採用が多い学校と先生がおっしゃっていました。調べてみると、点字や点字ブロック、エレベーターなどたくさんのものが見つかりました。ただ、ひろびろトイレではせっかくの設備なのにドアが重く、本当に車いすの人が使えるのかなと思ったところもありました。すべての人が使いやすいものを考え、実践することは難しいと思いました。

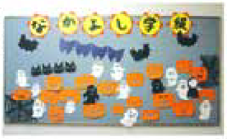
（6年・大谷小太郎）

うきうきキャンパス

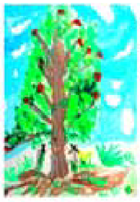

ひまわりとわたし
1年・高山七虹

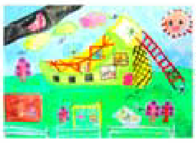

あそびを楽しむ小人たち
2年・花渕みゆう

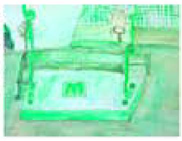

本を読んでいるところ
3年・石井佑佳



ハロウィン
なかよし学級


大きなハナノキ
4年・樋口涼


スニーカーアパート
5年・津田るるか


校庭のブランコ
6年・松岡理子

教え隊　夏の講座

DNA取り出し調べ

楽しかった「夏の講座」＝8月4日

高砂小では夏休みの前半、地域の人たちや先生方が講師になってくださる「夏の講座」があります。今年は32講座が開かれ、私は五つの講座に参加しました。

その中で一番楽しかったのは「生命の設計図・DNAを取り出してみよう」でした。ブロッコリーをすりつぶしたものにエーテルを加えると、白い糸状のDNAがあらわれました。DNAは自分が思ったよりも大きくてとてもデリケートでした。他のDNAも調べてみたいと思いました。

夏の講座は、私にとって、夏の大切な思い出になりました。

文・小野悠帆（6年）

編集後記

今回、私たちは取材の役割を分担し、高砂地域の歴史を調べました。

校歌の詞は、以前に校舎が建っていた場所と景色が由来になっていることが分かりました。現在の学校のことを歌っているのではないと知り、たいへん驚きました。さらに高砂小の歴史が想像していたものより古く、また地域と深くつながっていたことも強く感じました。

この調査を通して、これまでなにげなく歌っていた校歌に対する気持ちが変わりました。卒業まで残すところあと4カ月。校歌の意味や由来を考えながら、今まで以上に大切に歌い続けていきたいです。

＜編集委員＞佐々木天美、芳賀光樹、松本捺央、小野悠帆、柴山果那、鈴掛大地、池田瑠香、大谷小太郎、笠原香奈（6年）
題字デザイン　早坂琴音（6年）
＜指導教諭＞前田祐子、菅原英明

次回（12月14日）は中田小（仙台市）と館腰小（名取市）です。